

平成26年3月1日、熊本高専が主催する「KUSA の根共同プロジェクト」の報告会 及び、AT (アシティブテクノロジー) 分科会が熊本市で開催されました。

報告会に先立って開催された AT のグループミーティングでは、AT 全体の出口戦略を踏まえて、次年度より具体的に何をすべきかについて活発な議論が交わされた。本プロジェクト終了時には「持続性があり自立した研究グループ」として展開していくためにも、「仲良しグループ」ではなく、責任感とライバル意識をもった「緊張感あるグループ」としていく事が確認された。

一方、地元企業経営者も含め30名弱が参加した「KUSA の根共同プロジェクト」報告会では、熊本高専が取り組んできたパーソナルモビリティ装置 (STAVi) を活用した、主に障害者を対象とした公共スペースにおける生活の質の改善を主目的とした研究活動について紹介があった。

声による操縦や、衝突・脱輪防止システム、また GPS より高性能な位置測定システムを搭載した電動車椅子の開発に精力的に取り組んでいる熊本高専の先生方は、今後、三機関 AT の高齢者・障害者 (身体活動) 支援ワーキンググループと連動した研究活動を展開していく予定であり、技学イノベーション・産業創出実践部門への貢献が大いに期待される。フリーディスカッションでは、STAVi を開発した(株)サンワハイテックの山下社長より、今後の研究開発への企業側の視点からのアドバイスがあり、改めて産学官連携の重要性を参加者間で確認することができた。

加えて、地域企業と密着出来ている高専の Potentiality に、そして、このような51校の高専が全国にあるという比類なき絶大な Advantage があることに気付かされた。

今後のネットワーキングの発展と成果創出に期待したい。

記事：阿部憲一 産学官連携 PD



図1 「学生を参加させることを忘れてはいけない!!」と、その重要性を何度も熱く説明していた本学の産学官連携コーディネーター高橋



図2 「単発でポンッポンッではなく、皆で一つの大きな花火を打ち上げる意識で」と、AT 全体の出口戦略を花火に喩えたテーマリーダーの函館高専濱先生の言葉が印象的でした



図3 「KUSAの根共同プロジェクト」をとりまとめる熊本高専大塚先生は、三機関ATの高齢者・障害者（身体活動）支援ワーキンググループのリーダーでもあります



図4 質疑応答も活発だった研究報告会からも、先生方の熱意が伝わってきました